

～「感染しやすい」「重症化しやすい」デルタ株への対応～

現在、道内においても検査数の85%以上がデルタ株になるなど、置き換わりが進んでいます（8月13日現在）。夏休み中の学校関係者の感染者数も、これまでの長期休業中と比べると多い状況でした。

5月に感染が拡大したアルファ株以降、教職員の感染者数が増加し、教職員からの感染拡大が疑われる事例もみられているところです。

集団生活の場である学校において感染が拡大すると、同じ地域に住んでいる重症化しやすい方への感染や医療の逼迫につながる可能性があります。

次の点に改めて留意の上、夏休み明けの対策の徹底をお願いします。



ご自身・ご家族に「症状がある」場合は、「自宅で休養」してください

【これまでの校内感染事例にみられた特徴(例)】

微熱があったが、薬を飲んで登校し続け、後に感染が判明し、校内で感染が拡大

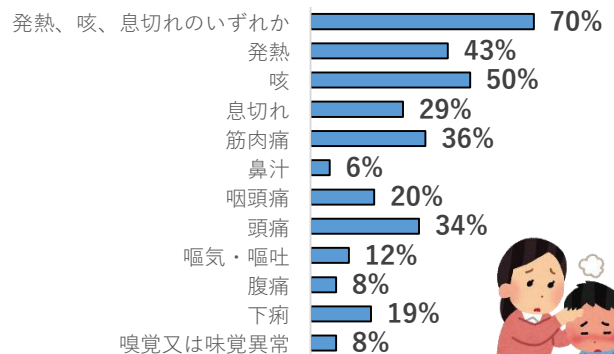


同居する家族にのどの痛みがあったが、症状が軽かったため、本人は登校し、後日家族全員の感染が判明し、校内で感染が拡大



発熱の有無に関わらず、ご自身・ご家族に症状がみられる場合は、症状がなくなるまで自宅で休養し、必要に応じて医療機関を受診するようお願いいたします。

COVID-19の症状の頻度



「新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き（第5.2版）」

非難や差別、誹謗中傷等について、子どもたちに考えさせてください

非難や差別の根っこには、見えない・わからないウイルスへの「不安・恐怖」や「防衛本能」があると言われています。誰でも感染者になる可能性があり、誰の中にも不安や防衛本能はあります。

「なぜ、非難や差別が生まれるのか」を理解した上で、子どもたちが、自分たちにできることは何かについて考え、交流する機会をつくっていただくようお願いします。



「ウイルスの次にやってくるもの」(日本赤十字社)



「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」(日本赤十字社)



「差別・偏見をなくそう」プロジェク 教材ダウンロード (日本学校保健会)



「体育及び保健に関する参考資料について」(北海道教育委員会)